

北九州市立枝光台中学校

えだみつだい

校長 戸次 健治

【校訓】

「邂逅」「自律」「創造」

【学校教育目標】

「知・徳・体の調和のとれた心豊かで、学校や地域を
愛し自主自立の精神に満ちた生徒の育成」

(突然ですが) 小林 一茶 (いっさ) の句から

3年生の受験が私立高校や公立高校等の入試が佳境にはいっています。入試というだけでも3年生には大きなプレッシャーがかかっています。また、五類に移行したとはいえコロナ感染症やインフルエンザの流行もおさまっていません。受験期の3年生は健康面でもいろいろと気をつかうところです。校内での3年生の様子はいつもと変わらない振る舞いを見せていますが、口には出さないものの内心は色々思うところがあると思っています。

江戸時代後半に活躍した俳人に小林一茶がいます。一茶は早くに母をなくし、その後も父親をなくした後に遺産相続で弟と激しく争い、52歳で結婚したものの生まれた4人の子どもは全員早くになくし、妻にもその後先立たれ、晩年には自宅を火事で失うという生涯を送っています。恵まれた人生を歩んだとは決して言えない一茶ですが、彼が残した句は、弱い者への優しさやユーモアにあふれる句が多いです。苦しさや悲しさを経験した彼だからこそ、そうした句を作ることができたのではないかとも思います。苦しい中でも見方を変えることで希望や笑顔が生まれることを私たちに伝えているようにも思えます。



入試だけでなく、苦しいときや落ち込んだときに、小林一茶の句を思い出すのもいいかなと思ひ紹介します。

「雀(すずめ)の子 そこのけ そこのけ お馬が通る」

「やれ打つな 蠅(ハエ)が手をすり 足をする」

「猫の子が ちよいと押さえる 落ち葉かな」

「とくくれよ ことしのや(よ)うな 悪どしは」

(早く暮れよ 今年のような 悪い年は)

インフルエンザが流行しています。

市内はもとより八幡東区内の小中学校でもインフルエンザによる学級閉鎖が出ています。手洗い、うがい等の基本的な感染対策を行いましょう。また、発熱等の体調不良の時は無理に登校せず、早めに医療機関にかかりましよう。